

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03031

研究課題名（和文）4Cを育成するCLIL教育方法の研究と日本の小学校教育への応用

研究課題名（英文）Research on CLIL teaching methods to foster 4Cs and its application to elementary school education in Japan

研究代表者

安達 理恵 (ADACHI, Rie)

椋山女学園大学・教育学部・教授

研究者番号：70574052

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：研究の目的 「日欧の教育現場における4CのCLILの実践事例の収集と類型化の枠組み」は、コロナ禍により十分な実践事例の収集はできなかったものの、日本で実践可能なCLILの枠組みを提案することができた。次に 「日本の教育状況に合わせたCLIL教材や指導方法」については、小学校との連携が難しくなったため新しいCLILの科研課題に引きつぎ、より具体的なCLIL教材や指導方法を提案していく。そして、「プロジェクト型の活動導入による多様な面を伸ばす指導方法」については、児童のCLILプロジェクト活動に対する態度には「自律英語学習」「情報収集と問題解決力」「外国人との関係性」の3因子があると分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本で実践可能なCLILの枠組みを提案することによって、教育機関や児童生徒の発達年齢や特徴を踏まえた実践が行えるようにした。次に日本の状況に合わせたCLIL教材や指導の具体例を示したことにより、日本人学習者が学びやすい環境を整えた。また、ヨーロッパの移民の児童のCLIL同様、愛知県を主とする外国籍児童の教育状況を把握してCLILを幅広い観点で捉え、4CのうちのCultureの意味を再認識することに貢献した。最後にプロジェクト型CLILの活動導入により外国語教育は、単なる単語やスキル習得ではなく、異文化の他者との関係性構築にも意義があることを確認し、AI時代の外国語教育の在り方を検証した。

研究成果の概要（英文）：Regarding the first objective, "Collecting examples of 4C CLIL practices in Japanese and European educational settings and proposing a framework for classification," I was not able to collect enough examples due to the Corona disaster but was able to propose a framework for CLIL that could be implemented in Japan. In the second objective, "Research on CLIL materials and teaching methods adapted to the Japanese educational context," I will propose more specific CLIL materials and teaching methods, continuing research on my new KAKENHI, since it was difficult to work with elementary schools. As for the third objective, "Finding teaching methods to develop children's diverse abilities by introducing PBL," three factors were found to contribute to children's attitudes: "autonomous English learning," "information gathering and problem-solving skills," and "relationships with foreigners." It was confirmed that project activities are a desirable teaching method.

研究分野：外国語教育

キーワード：CLIL 内容言語統合型学習 小学校外国語教育 異文化間教育 国際交流 プロジェクト型学習 動機づけ 主体的・対話的で深い学び

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

それ以前の代表者の研究では、英語が苦手な学習者(大学生)は「初期段階からつまづき苦手意識が固定化」、「英語学習の必要性を感じていない(異文化や外国人と関わりたくない)」ことが明らかになっていた。また英語は積み重ねが必要な学習であるが、文部科学省の「英語教育実施状況調査」等を見ると、高校生の中には英語に対して苦手意識を持つ学習者が多い現実があった。このため英語嫌いを減らすには、学習初期に丁寧な指導と異文化や外国語への関心を育てることが重要と考えられた。その一方、2020年に小学校で英語が教科化されることになったものの、導入時には教科化に反対も多く、一般的な小学校では、外国語指導の資格をもつ教員も圧倒的に足りなかった。したがって、小学校での英語の教科化により、できる子とできない子の格差が生まれる可能性があり、さらに日本の学校に在籍する外国籍児童も増加し続けていた。そこで本研究では、格差を広げないことに焦点を当て、また英語のスキル向上を主目的とするのではなく、「異文化への関心」や「多様な外国人に対する積極的な態度」を育成する手段として CLIL(内容言語統合型学習)の教育方法について研究することにした。

### 2. 研究の目的

本研究は、「4Cを育成する CLIL(内容言語統合型学習)教育方法の研究と日本の小学校教育への応用」という課題名で、主に小学校段階で4つのC(Content, Communication, Cognition, Culture/Community)の育成を目的とし、全人教育としての CLIL 指導の枠組みを提案することを目的とした。そして、①小学校での担任主導の実践を可能にするために、日欧の教育現場における4Cを主目的とする CLIL の指導の実践事例を収集し、類型化した枠組みを提案すること、②日本の小学校に適用できるようにするため、ヨーロッパで広まっている CLIL ではなく、外国語に接する機会が少ない日本の教育状況に合わせた CLIL 教材や指導を研究すること、③プロジェクト型の活動を導入することで、児童の多様な面を伸ばす指導方法を目指し、研究協力者と研究会で効果や課題や評価方法を検討しながら、より良い提案・改善を行っていくこと、を研究することにした。

### 3. 研究の方法

研究方法としては、以下のように実施することを予定した。まず、担任と英語指導助手の TT で、学期1回程度実施が可能なプロジェクト授業案を開発し教材を作成する。また CLIL を実践している海外や国内の教員から学びつつ、研究協力者が授業を実践出来るように、多様な人々と協力し異なる意見を尊重することを重視する学習者コミュニティ形成を目指す指導法を考える。そしてワークショップ形式の研究会を開催することで、指導方法を体験しながら学べるよう支援をする。また、リフレクション・ペーパー、ワークシートや制作物の見とりを利用して有効性を検証する。また、授業担当者にインタビューによる調査を行い、授業案・教材の提案や改善をさらに進め、評価方法も検討する。さらにその結果に基づき、指導内容や指導法や評価のあり方を改善し、指導者支援も引き続き行い、研究会等で4Cを重視の CLIL 指導方法を広める、である。

### 4. 研究成果

まず、研究目的の については、イタリアの小学校での CLIL 授業観察(理科や社会科の内容)に基づき授業分析を行い、ワークショップ型研究会の開催やセミナーを複数開催した。 については、小学校で異文化間交流をする学校の先生と協力して協同研究を始め、授業を観察・分析した。また については、小学校の先生方とプロジェクト型の授業を開発・支援し、内容や効果について学会発表や執筆をした。執筆などには、共同研究者の先生にも加わって頂いた。

しかし、2020年度は、コロナ感染症のため研究の遂行に多くの点で変更が生じた。まず対面の会議や授業見学が難しくなった。また、代表者が大学を異動したこともあり、新規科目の授業準備に加え、遠隔授業への変更などで、ほぼ半年は研究が止まっていたが、状況が落ち着き始めるにつれて、遠隔を利用した研究方法を模索し始めた。そして「4Cを育成する CLIL 指導」をテーマとする研究会を国内外の講師を招聘し ZOOM などのオンラインで開催することにした。そして、参加者とともに、日本で実施可能な CLIL 教材や指導方法について考察し、小学校での CLIL 実践の効果を幅広くかつ認知度を高めることに努めた。また、それまで収集してきた CLIL 活動例を類型化した枠組みについて整理し執筆をした。さらに異動した大学では、小学校教員養成を主とする授業を担当することになったため、授業でも、教員を目指す学生に CLIL の効果についてこれまでの研究成果を含め解説することにした。

2021年度以降も、コロナ感染症のため引き続き小学校への訪問などはできなかったが、大学の教育現場において、教職課程で小学校の教員を目指す学生を対象に、授業内で CLIL(内容言語統合型学習)を取り入れた指導法の紹介や異文化理解を深める活動、異文化間交流活動を行った。これにより、小学校の授業担当者にインタビューすることは難しくなりましたが、教職課程の学生を対象として、授業後のコメントを対象とした研究をすることに方針転換をした。さ

らに大学の授業では、これまでの実践事例収集から、外国語初期学習段階での文字や音韻指導のための CLIL 活動なども紹介し、その後の学生の学びのリフレクションを分析することにした。また、共同研究者である小学校教員の優れた CLIL 実践については、録画をお願いし、学生に視聴してもらうことにした。これらの分析した結果や CLIL を導入した授業実践内容について、複数の学会で発表し、論文にまとめるなどの執筆を行った。

2022 年度は、外国語で他教科指導を行っている小学校を数年ぶりに訪問できるようになり、調査結果をまとめて発表・執筆を行った。また教職課程の学生の授業後のコメントについてさらに分析を進め、論文にまとめるなどをした。また、外国籍児童について、日本語教育や日本語による教科教育の課題の観点から執筆をした。

以上、総括としては、「1)日欧の教育現場における 4C を主目的とする CLIL の指導の実践事例を収集と類型化した枠組みの提案」については、コロナ禍により日欧の教育現場で CLIL の指導の十分な実践事例の収集はできなかったものの、日本で実践可能な CLIL の枠組みを提案することができ、執筆もした。次に、「2)日本の教育状況に合わせた CLIL 教材や指導方法を研究」については、小学校との連携が難しかったため、新しい科研課題「主体的・対話的で深い学びを促す CLIL (内容言語統合型学習) の教材開発・指導方法」において、より具体的な CLIL 教材や指導方法を提案していく予定である。そして、「3)プロジェクト型の活動の導入により児童の多様な面を伸ばす指導方法に向けたより良い提案・改善」については、児童のプロジェクト活動に対する態度要因には「自律英語学習」「情報収集と問題解決力」「外国人との関係性」の 3 因子があることが分かり、プロジェクト型の活動は、児童の多様な力を伸ばす指導として望ましいと考えられた。しかしながら、現状を見ると、教科化されて以来、多くの小学校教員は、教科書を中心とした授業展開をしている様子も見られる。その一方、最近の小学校外国語の検定教科書には、他教科連携のプロジェクト活動が取り入れられるようになってきた。今後も、新しい科研課題「主体的・対話的で深い学びを促す小学校の CLIL 教材・指導法の研究」で CLIL 国際共同プロジェクトを進展させつつ、日本の小学校において、児童の多様な面を伸ばすプロジェクト型の CLIL 活動を広めていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 51
2. 論文標題 CLIL とラップブック指導による小学校外国語指導法授業の学生への影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要51号	6. 最初と最後の頁 173-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 19号
2. 論文標題 書評『CEFRの理念と現実 現実編 教育現場へのインパクト』（西山教行・大木充編 くろしお出版）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学英語教育学会中部支部紀要	6. 最初と最後の頁 pp.101-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久村研, 栗原文子, 米田佐紀子, 山口高領, 長田恵理, 清田洋一, 高木亜希子, 酒井志延, 中山夏恵, 安達理恵	4. 巻 -
2. 論文標題 小学校英語指導者のポートフォリオ(J-POSTL エレメンタリー)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JACET教育問題研究会	6. 最初と最後の頁 全73頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 第49号
2. 論文標題 日本の学校で実践可能なCLIL事例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 359
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 第610号
2. 論文標題 小学校外国語で大切にしたいこと どのような力を育てるのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新英語教育2020年6月号	6. 最初と最後の頁 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博、富岡宏健	4. 巻 39号
2. 論文標題 小学校における体育CLILのあり方について 中学年の体づくり運動を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要	6. 最初と最後の頁 pp.191-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博	4. 巻 51号
2. 論文標題 CLILの思考を重視した小学校6年生の英語科授業 歴史上の人物の内容を活用して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国地区英語教育学会誌	6. 最初と最後の頁 pp.79-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博	4. 巻 21号
2. 論文標題 日本の過去に目を向けた小学校英語教育 CLILは明治時代や昭和初期の時代にもあった？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小学校英語教育学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 pp.159-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵、阿部志乃、樫本洋子、北野ゆき、竹田里香、松延亜紀、安田万理	4. 巻 19
2. 論文標題 小学校でのCLIL活動実践とその効果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小学校英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 pp.386-401
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 604
2. 論文標題 英語が苦手な大学生のための協同学習	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新英語教育2019年12月号	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 603
2. 論文標題 書評『小学校外国語教育のCLIL実践』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新英語教育2019年11月号	6. 最初と最後の頁 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博	4. 巻 50
2. 論文標題 実技教科を活用した小学校CLIL の利点と課題について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国地区英語教育学会誌	6. 最初と最後の頁 pp.117-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshihiro Nigo	4. 巻 Special issue 2
2. 論文標題 CLIL of Physical Education and English in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association (J-CLIL)	6. 最初と最後の頁 pp.160-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 55
2. 論文標題 協同学習を取り入れたリメディアル学習者対象の英語授業	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学一般教育論集	6. 最初と最後の頁 pp.59-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵、阿部志乃、北野ゆき	4. 巻 39
2. 論文標題 児童の動機づけと異文化間交流プロジェクト	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 言語と文化	6. 最初と最後の頁 83-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵・阿部志乃・北野ゆき・諸木宏子	4. 巻 6, Vol.1
2. 論文標題 自立学習から世界の問題に繋げるチョコレート・プロジェクト	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語教師教育 / JACET教育問題研究会	6. 最初と最後の頁 129-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 48
2. 論文標題 日本におけるCLILの可能性と課題（課題別研究プロジェクト「CLILとアクティブラーニングによる外国語教育の可能性」発表要旨）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博	4. 巻 49
2. 論文標題 地域を題材とした小中一貫の英語学習に関する事例研究 CLIL の4C の視点より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国地区英語教育学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 pp.65-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshihiro Nigo	4. 巻 special
2. 論文標題 CLIL in a Japanese Elementary School: An Exploration of History	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association ( Special issue)	6. 最初と最後の頁 pp.114-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部志乃	4. 巻 5, Vol.1
2. 論文標題 小学校英語教育におけるLap Bookの指導と評価の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 言語教師教育 / JACET教育問題研究会	6. 最初と最後の頁 pp.115-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -



1. 著者名 阿部志乃	4. 巻 5
2. 論文標題 チョコレート・プロジェクト - チョコレートから世界の現実に目を向ける力 を養成する外国語学習	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 複言語・多言語教育研究	6. 最初と最後の頁 pp.69-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部志乃	4. 巻 6
2. 論文標題 マイネーム・プロジェクト 「自立した学習者」と「将来につながる外語学習」 を目指した小学校の実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 複言語・多言語教育研究	6. 最初と最後の頁 pp.109-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Adachi, Rie	4. 巻 4
2. 論文標題 Japanese engineering students' attitudes toward studying abroad and living with other cultures in an increasingly globalized world	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Language Teacher Education	6. 最初と最後の頁 75-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵, 二五義博, 栗原文子, 中山夏恵, 藤原三枝子	4. 巻 5
2. 論文標題 イタリアのCLIL授業観察から考察する日本の外国語教育への応用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JACET問題教育研究会会誌 『言語教師教育』	6. 最初と最後の頁 145-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹田里香, 安達理恵, 酒井志延	4. 巻 5
2. 論文標題 小学校英語教育のための文字指導の研究会報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JACET問題教育研究会会誌『言語教師教育』	6. 最初と最後の頁 156-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 43
2. 論文標題 効果的な ICT の活用と教育における動機づけ 小学校英語授業を例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 コンピュータ & エデュケーション	6. 最初と最後の頁 10-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 52
2. 論文標題 小学校での外国語による他教科指導の効果と課題 情意要因を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 pp.109 -114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 46
2. 論文標題 外国語指導法授業での文字・音韻指導とジョリーフォニックス紹介による指導意識への効果	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知大学語学教育研究室紀要言語と文化	6. 最初と最後の頁 43-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 16
2. 論文標題 小学校外国語模擬授業のKPT3 観点のリフレクションとJPOSTLエレメンタリーの導入による成長	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 椋山女学園大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 143-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵	4. 巻 第12巻
2. 論文標題 外国籍児童と異文化間教育 愛知県を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛知大学地域政策学部地域政策学センター 地域政策学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 37~46頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計52件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 オンライン国際理解ワークショップによる教職課程学生の民主的文化能力への効果
3. 学会等名 国際理解教育学会 第30回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 CLILとラップブック指導による小学校外国語指導法授業の学生への影響
3. 学会等名 中部地区英語教育学会第50回記念大会 課題別プロジェクト「CLIL とアクティブラーニングによる外国語教育の可能性」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 小学校外国語指導法授業における複言語・複文化ワークショップによる外国語指導意識への効果
3. 学会等名 児童英語教育学会 (JASTEC) 第41回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rie ADACHI
2. 発表標題 Contextualizing CLIL in primary schools in Japan as an EFL country
3. 学会等名 AILA2021: Applied Linguistics ' on The Dynamics of Language, Communication and Culture in a Changing World, Held Virtually. S172 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fumiko Kurihara, Eri Osada, Sakiko Yoneda, Takane Yamaguchi, & Rie ADACHI
2. 発表標題 Ensuring pedagogical consistency between primary- and secondary-level foreign language education through portfolios in Japan
3. 学会等名 AILA2021: Applied Linguistics ' on The Dynamics of Language, Communication and Culture in a Changing World, Held Virtually. S184 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 外国語指導法授業でのユニバーサルデザインを目指した文字・音韻指導とジョリーフォニックス紹介による指導意識への効果
3. 学会等名 小学校英語教育学会 関東・埼玉大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古家貴雄・太田圭
2. 発表標題 公立小学校におけるCLIL活動実践報告 - 外国語科と社会科との統合を通して
3. 学会等名 中部地区英語教育学会第50回記念大会 課題別プロジェクト「CLIL とアクティブラーニングによる外国語教育の可能性」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古家貴雄
2. 発表標題 小学校英語教育における諸課題への対応 評価方法を中心として
3. 学会等名 山梨市小学校英語科教育推進委員会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安達理恵，片平恵，北野ゆき，吹越菜央
2. 発表標題 小学校での異文化理解教育実践と教員の意識 RFCDCの観点から
3. 学会等名 言語教育エキスポ2020補講
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安達理恵，阿部志乃，櫻本洋子，北野ゆき，竹田里香，松延亜紀，安田万理
2. 発表標題 CLIL活動と児童の外国語学習に関する情意要因の関係
3. 学会等名 第20回小学校英語教育学会（JES）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rie ADACHI
2. 発表標題 How to switch to remote teaching? Issues and Possibilities
3. 学会等名 JALT NAGOYA (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 COVID19とこれからの外国語教育とCLIL
3. 学会等名 2020年度JACET関西「海外の外国語教育」研究会 第1回 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古家貴雄
2. 発表標題 小学校英語教育における諸課題解決への考え方
3. 学会等名 山梨市小学校英語科教育推進委員会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 オンライン異文化間ワークショップによる教職課程学生の教員キャリア意識への効果 異文化間能力の育成を中心に
3. 学会等名 東洋大学 藤尾美佐 基盤研究C「大学間・インバウンド・キャリアとの連携による異文化間コミュニケーション能力の育成」報告会「コロナ禍の新たな取り組みについて」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rie ADACHI
2. 発表標題 How to conduct CLIL in Primary Schools in Japan
3. 学会等名 The 17th Asia TEFL International Conference 2019 ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達理恵、阿部志乃、櫻本洋子、北野ゆき、竹田里香、松延亜紀、安田万理
2. 発表標題 小学校でのCLIL活動実践とその効果
3. 学会等名 第19回小学校英語教育学会北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rie ADACHI
2. 発表標題 An international project-based learning and EFL education: A case study at a private elementary school
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 日本の学校で実践可能なCLIL事例
3. 学会等名 第 49回中部地区英語教育学会 石川大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹田里香・安達理恵
2. 発表標題 教員の感性を豊かにし授業が変わるドラマ体験の質的研究
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 他教科連携の外国語教育 CLILを取り入れてみよう
3. 学会等名 新英語教育研究会第56回全国大会 愛知大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 英語で学ぶモデル事業のこれから
3. 学会等名 「英語で学ぶモデル授業」公開授業 講演会 八町小学校（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 小学校での外国語教育とCLIL
3. 学会等名 豊橋市民大学トラム講座 愛知大学豊橋校舎（招待講演）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 二五義博、富岡宏健
2. 発表標題 小学校4年生の体育授業におけるCLILの実践 - 英語を使用した「体づくり運動」を事例として -
3. 学会等名 JACET中国・四国支部春季研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 日本の過去に目を向けた小学校英語教育 CLILは明治時代にもあった？
3. 学会等名 第19回小学校英語教育学会北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 実技教科を活用した小学校CLILの利点と課題について
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二五義博、富岡宏健
2. 発表標題 小学校における体育CLILのあり方について 中学年の体づくり運動を事例として
3. 学会等名 第39回日本児童英語教育学会秋季研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rie ADACHI
2. 発表標題 The spread of CLIL in foreign language education in Japan
3. 学会等名 International Conference on Quality of Bilingual Programs in Higher Education (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 日本におけるCLILの可能性と課題
3. 学会等名 第 48回中部地区英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rie ADACHI & Yoshihiro NIGO
2. 発表標題 The Problems and Expectations of Spreading CLIL in Japan
3. 学会等名 Asia TEFL 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安達理恵、阿部志乃、北野ゆき、諸木宏子
2. 発表標題 異文化と外国語を繋ぐチョコレート・プロジェクト
3. 学会等名 全国英語教育学会第44回京都研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安達理恵、阿部志乃、北野ゆき、諸木宏子
2. 発表標題 自立学習から世界の問題に繋げるチョコレート・プロジェクト
3. 学会等名 言語教育エキスポ2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 Story telling と CLILについて
3. 学会等名 CLILとアクティブラーニング研究会【第4回】
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 地域を題材とした小中一貫の英語学習に関する事例研究 CLILの4C の視点より
3. 学会等名 第49回中国地区英語教育学会山口大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 図画工作の視点を取り入れた小学校英語教育の考察 イタリアのCLIL授業観察と日本での授業実践より
3. 学会等名 第18回小学校英語教育学会長崎大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西原美幸、二五義博
2. 発表標題 小学校中学年における社会科内容との統合を指向したCLIL型授業の開発
3. 学会等名 第46 回日本児童英語教育学会中国四国支部秋季研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rie ADACHI
2. 発表標題 The effectiveness and challenges of international project-based learning at Japanese primary schools
3. 学会等名 Educating the Global Citizen: International Perspectives on Foreign Language Teaching in the Digital Age (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 CLILの可能性と課題と実践
3. 学会等名 横浜国立大学教員研修 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安達理恵、片平恵
2. 発表標題 小学校英語における異文化理解教育
3. 学会等名 第2回小学校英語セミナー ともに学ぶ英語の会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 ヨーロッパの CLIL から日本への応用 (地理)
3. 学会等名 第 47 回中部地区英語教育学会 長野大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 グローバル化時代のコミュニケーション能力 小学校の外国語教育から考える
3. 学会等名 科学研究費補助金基盤研究 (A) 「一貫教育における複言語能力養成のための人材育成・教材開発の研究」代表者：境一三
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北野ゆき, 安達理恵
2. 発表標題 異文化への関心と外国語学習意欲を高める異文化間交流ーティペアプロジェクトによるCLIL
3. 学会等名 小学校英語教育学会第17回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Rie Adachi & Shien Sakai
2. 発表標題 The effect of CLIL at a private elementary school in Japan
3. 学会等名 第 29 回日米教員養成協議会 (JUSTEC) 年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部志乃, 安達理恵
2. 発表標題 児童の外国語学習意欲に繋がる異文化間交流と内容重視の活動
3. 学会等名 全国英語教育学会 第43回島根大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安達理恵、栗原文子、中山 夏恵、二五義博
2. 発表標題 イタリアの CLIL授業観察から考察する日本の外国語教育への応用
3. 学会等名 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第37回秋季研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 他教科連携の外国語教育とCLILの可能性
3. 学会等名 愛知大学人文社会学研究所主催「外国語教育におけるCLILの試みと課題」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部志乃, 安達理恵, 中山夏恵, 栗原文子
2. 発表標題 言語と異文化への関心を高める小学校外国語教育
3. 学会等名 言語教育エキスポ2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 イタリアのCLIL授業の検討と日本の小学校英語教育への示唆 MI (多重知能) の視点を中心として
3. 学会等名 第17回小学校英語教育学会兵庫大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 小学校英語は「内容」と「言語」の二刀流で学ぼう！ CLILの思考を重視した教科横断的指導法の体験を通して
3. 学会等名 全国英語教育学会・小学校英語教育学会 第3回英語教育セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 小学校での外国語による他教科指導の効果と課題 情意要因を中心に
3. 学会等名 中部地区英語教育学会第51回記念大会 福井大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rie ADACHI
2. 発表標題 Foreign Language Education and Intercultural Understanding in Elementary School Education
3. 学会等名 全国英語教育学会 (JASELE) 第47回北海道研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rie ADACHI, Yuki Kitano, & Tatiana Bruni
2. 発表標題 Peace project and intercultural exchange among Japanese primary school and universities in Japan and the Netherlands
3. 学会等名 IAIE (Intercultural Education on the Move: Facing Old and New Challenges) International Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 安達理恵
2. 発表標題 「異文化理解による動機づけ」ワークショップ趣旨説明など
3. 学会等名 日本児童英語教育学会 小・中学校英語教材・指導法研究部会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 安達理恵 (木下徹教授退職記念論集編集委員会編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 277
3. 書名 応用言語学と外国語教育研究 未来への展望「異文化理解と外国の学びに関する一考察 主体的な学びを促す教科連携授業のリフレクションから」	

1. 著者名 安達理恵 (米田佐紀子・山口高領・長田恵理編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 JACET教育問題研究会	5. 総ページ数 160
3. 書名 小学校英語指導者のポートフォリオ J-POSTLエレメンタリー 教職課程における活用実践「J-POSTLエレメンタリーと3観点による省察」	



1. 著者名 安達理恵 (西田理恵子編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 253
3. 書名 動機づけ研究に基づく英語指導「第2章 第1節 小学校でのプロジェクト型CLILと動機づけ」	

1. 著者名 鈴木涉・西原哲雄(編集)他共著者14名 安達理恵担当：第11章「異文化理解の理論」pp.164-182.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 224
3. 書名 小学校英語のためのスキルアップセミナー 理論と実践を往還する	

1. 著者名 光村図書 小泉仁・加賀田哲也 他共著者24名 担当：主に異文化理解や国際理解、CLILのためのページを担当	4. 発行年 2020年
2. 出版社 光村図書出版	5. 総ページ数 144
3. 書名 Here we go! 6 (小学校英語教科書)	

1. 著者名 光村図書 小泉仁・加賀田哲也 他共著者24名 担当：主に異文化理解や国際理解、CLILのためのページを担当	4. 発行年 2020年
2. 出版社 光村図書出版	5. 総ページ数 136
3. 書名 Here we go! 5 (小学校英語教科書)	

1. 著者名 酒井志延, 久村研, 萱忠義、安達理恵他11名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 237
3. 書名 先生のための小学校英語の知恵袋	

1. 著者名 Rie Adachi (The Spread of CLIL in Foreign Language Education in Japan, pp.81-95)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Universidad de Huelva	5. 総ページ数 204
3. 書名 Historia, educacion plurilingue y ensenanza de las ciencias sociales en el contexto Hispano-Japones / EMILIO JOSE DELGADO (Ed.)	

1. 著者名 安達理恵 (愛知大学中部地方産業研究所)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 愛知大学中部地方産業研究所	5. 総ページ数 698
3. 書名 『東三河の経済と社会』第9輯「2.多文化共生と外国人児童」685～698頁.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	古家 貴雄  (Furuya Takao)  (30238696)	山梨大学・大学院総合研究部・教授   (13501)	
研究分担者	二五 義博  (Nigo Yoshihiro)  (60648658)	山梨学芸大学・教育学部教育学科・教授   (35507)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	北野 ゆき  (KITANO Yuki)		
研究協力者	阿部 志乃  (ABE Shino)		
研究協力者	榎本 洋子  (KASHIMOTO Hiroko)  (40835352)	四天王寺大学・教育学部,・助教    (34420)	
研究協力者	松延 亜紀  (MATSUNOBU Aki)		
研究協力者	竹田 里香  (TAKEDA Rika)		
研究協力者	安田 万理  (YASUDA Mari)		
研究協力者	諸木 宏子  (Moroki Hiroko)		
研究協力者	ブルーニ タチアナ  (Bruni Tatiana)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 CLILとアクティブラーニング研究会【第4回】	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 CLILとアクティブラーニング研究会【第5回】	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	LEND			
英国	CULTNET			